

平成22年産一番茶生産量（主産県）

- 一番茶の荒茶生産量は、前年産から2,400 t 減少 -

【調査結果の概要】

- 1 摘採面積
摘採面積は3万1,300haで、前年産に比べて700ha（2%）減少した。
- 2 生葉収穫量
生葉収穫量は13万4,800 tで、主として静岡県、三重県等において3月から4月を中心とした低温の影響等により10 a 当たり生葉収量が減少したことから、前年産に比べて1万1,100 t（8%）減少した。
- 3 荒茶生産量
荒茶生産量は2万7,900 tで、生葉収穫量が減少したことにより前年産に比べて2,400 t（8%）減少した。
府県別荒茶生産量は、静岡県が1万4,200 t、次いで鹿児島県が7,770 t、三重県が2,710 t等となっている。

図1 摘採面積の前年比較（主産県）

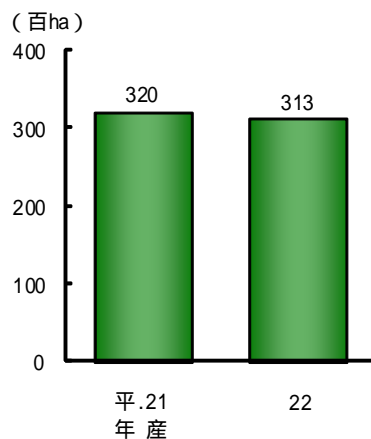
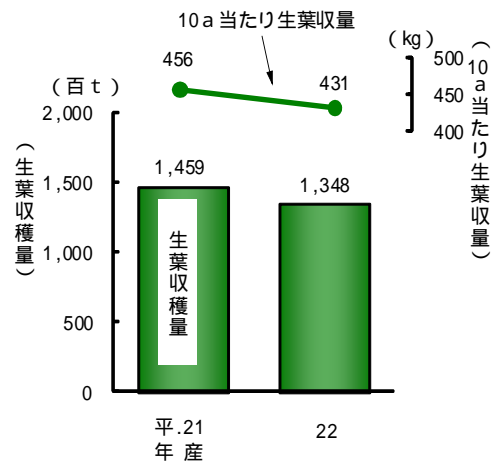


図2 10 a 当たり生葉収量及び生葉収穫量の前年比較（主産県）



摘採面積とは、茶を栽培している面積のうち、収穫を目的として茶葉の摘採が行われた面積をいう。
荒茶とは、茶葉（生葉）を蒸熟、揉み操作、乾燥等の加工処理を経て製造されたもので、仕上げ茶として再製する以前のものをいう。

- 注：1 この一番茶調査は、主産県を対象に調査を実施している。主産県とは一番茶期の生葉収穫量の多い上位3県（静岡県、鹿児島県及び三重県）に畑作物共済事業（茶共済）を実施している府県のうち、半相殺方式を採用している3府県（埼玉県、京都府及び奈良県）を加えた6府県である。
- 2 主産県計については、主産県の調査結果を積み上げ集計している。

この統計調査結果で使用している統計表は、政府統計の総合窓口(e-Stat)の「統計データ新着情報」でご覧いただけます。

【 <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do> 】

【関連するデータ、情報】

調査結果の利活用
 農業災害補償制度に基づく畑作物共済事業における共済基準収量算定及び農業共済組合連合会当初評価高の審査・認定のための資料

関連データ

1 一番茶の摘採面積、10a当たり生葉収量、生葉収穫量及び荒茶生産量の推移(主産県)

単位 { 摘採面積：ha
 10a当たり生葉収量：kg
 生葉収穫量、荒茶生産量：t

区分	平・17年産				18				19			
	摘採面積	10a当たり生葉収量	生葉収穫量	荒茶生産量	摘採面積	10a当たり生葉収量	生葉収穫量	荒茶生産量	摘採面積	10a当たり生葉収量	生葉収穫量	荒茶生産量
主産県計	33 000	492	162 300	34 100	32 900	469	154 300	32 000	32 600	474	154 500	31 900
埼玉	1 010	338	3 410	757	985	301	2 960	622	962	328	3 160	668
静岡	19 100	465	88 800	18 900	19 000	449	85 400	17 900	18 800	442	83 100	17 400
三重	2 990	515	15 400	3 250	2 960	493	14 600	3 000	2 960	515	15 200	3 070
京都	1 420	583	8 280	1 690	1 420	555	7 880	1 650	1 370	568	7 800	1 650
奈良	749	862	6 460	1 570	736	783	5 760	1 380	711	783	5 570	1 270
鹿児島	7 690	519	39 900	7 920	7 750	486	37 700	7 450	7 830	507	39 700	7 850

区分	20				21				22(概数)			
	摘採面積	10a当たり生葉収量	生葉収穫量	荒茶生産量	摘採面積	10a当たり生葉収量	生葉収穫量	荒茶生産量	摘採面積	10a当たり生葉収量	生葉収穫量	荒茶生産量
主産県計	32 500	488	158 500	32 300	32 000	456	145 900	30 300	31 300	431	134 800	27 900
埼玉	954	340	3 240	700	874	325	2 840	604	830	310	2 570	541
静岡	18 500	441	81 600	17 100	18 100	414	75 000	16 000	17 500	382	66 800	14 200
三重	3 010	590	17 800	3 480	2 970	496	14 700	2 880	2 920	465	13 600	2 710
京都	1 380	509	7 020	1 420	1 380	526	7 260	1 490	1 370	518	7 090	1 490
奈良	696	721	5 020	1 190	685	756	5 180	1 300	678	696	4 720	1 190
鹿児島	7 940	552	43 800	8 430	8 000	511	40 900	8 030	8 030	498	40 000	7 770

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：主産県計については、主産県の調査結果を積み上げ集計している。

2 普通せん茶平均価格の推移

単位：1kg当たり円

区分	普通せん茶	
	普通せん茶	一番茶
平・17年	1 830	2 670
18	1 725	2 626
19	1 740	2 641
20	1 581	2 396
21	1 445	2 250

資料：(社)日本茶業中央会『茶関係資料』

【調査結果】

1 摘採面積

摘採面積は3万1,300haで、前年産に比べて700ha(2%)減少した。

これは、主として静岡県等で生産者の高齢化による廃園等があったことによる。

2 10a当たり生葉収量

10a当たり生葉収量は431kgで、前年産に比べて5%下回った。

これは、主として静岡県、三重県等における3月から4月を中心とした低温の影響等による。

3 生葉収穫量

生葉収穫量は13万4,800tで、前年産に比べて1万1,100t(8%)減少した。

これは、摘採面積が減少したことに加え、10a当たり生葉収量が前年産を下回ったことによる。

4 荒茶生産量

荒茶生産量は2万7,900tで、前年産に比べて2,400t(8%)減少した。

府県別荒茶生産量は、静岡県が1万4,200t(主産県計の51%)、次いで鹿児島県が7,770t(同28%)、三重県が2,710t(同10%)等となっている。

図3 一番茶の摘採面積及び荒茶生産量(主産県)

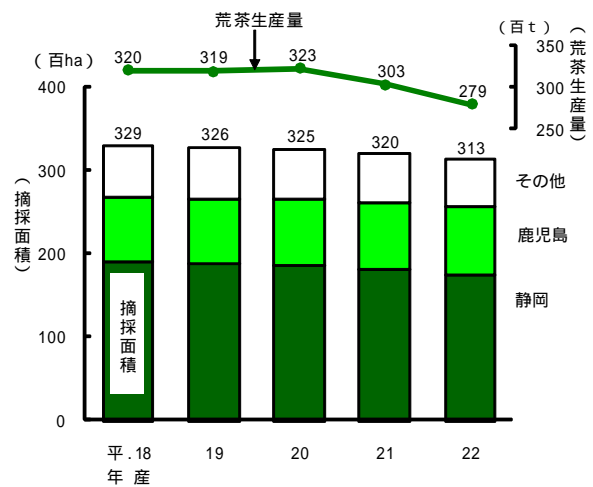


図4 一番茶の府県別荒茶生産量(主産県)

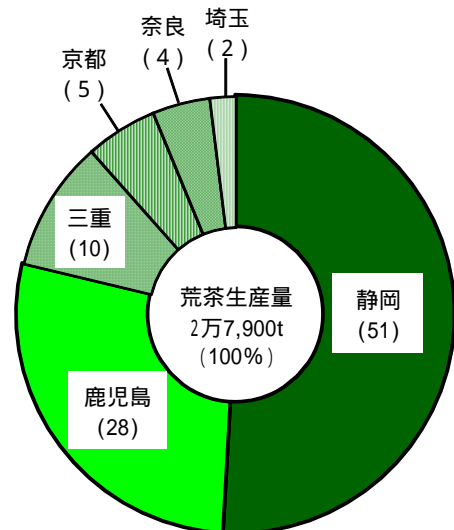


表 一番茶の摘採面積、10a当たり生葉収量、生葉収穫量及び荒茶生産量(主産県)

区分	摘採面積	10a当たり生葉収量	生葉収穫量	荒茶生産量
	ha	kg	t	t
平.22年産	31 300	431	134 800	27 900
21	32 000	456	145 900	30 300
前年産対比(%)	98	95	92	92

【統計表】

一番茶の府県別摘採面積、10a当たり生葉

府 県	摘 採 面 積	10 a 当 たり 生 葉 収 量	生 葉 収 穫 量	荒 茶 生 産 量					
				計	おおい茶	普 通 せ ん 茶	玉 緑 茶	番 茶	そ の 他
	ha	kg	t	t	t	t	t	t	t
主産県計 1	31 300	431	134 800	27 900	2 910	21 700	195	3 010	x
埼 玉 2	830	310	2 570	541	x	533	-	4	x
静 岡 3	17 500	382	66 800	14 200	228	13 500	124	290	27
三 重 4	2 920	465	13 600	2 710	1 350	1 200	-	136	14
京 都 5	1 370	518	7 090	1 490	711	447	-	332	-
奈 良 6	678	696	4 720	1 190	384	251	-	554	1
鹿 児 島 7	8 030	498	40 000	7 770	230	5 770	71	1 690	3

注：主産県とは、一番茶期の生葉収穫量の多い上位3県及び畑作物共済事業（茶共済）を実施している府県のうち、半相殺方式を採用している3府県を加えた6府県である。

収量、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）

前年産対比										府 県
摘採面積	10 a 当たり 生葉収量	生 葉 量 収 穫 量	荒 茶 生 産 量						%	
			計	おい茶	普 通 せん茶	玉緑茶	番 茶	その他		
%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	
98	95	92	92	x	90	89	104	x	1	
95	95	90	90	x	89	-	133	x	2	
97	92	89	89	97	87	91	182	108	3	
98	94	93	94	89	101	-	75	-	4	
99	98	98	100	99	98	-	106	-	5	
99	92	91	92	97	92	-	88	100	6	
100	97	98	97	73	96	85	105	33	7	

【調査の概要】

1 調査の目的

茶生産量調査は、茶の生産に関する実態を明らかにすることにより、「食料・農業・農村基本計画」における生産数量目標の策定及び達成状況の確認のための資料とするとともに、茶に関する生産対策、需給対策等各種施策の企画立案の資料とすることを目的としている。

このうち一番茶については、農業災害補償制度に基づく畑作物共済事業における共済基準収量算定及び農業共済組合連合会当初評価高の審査・認定のための資料とすることを目的に、一番茶生産量調査として実施している。

2 調査の対象

(1) 調査の範囲

一番茶期の生葉収穫量の多い上位3県（静岡県、鹿児島県及び三重県）に畑作物共済事業（茶共済）を実施している府県のうち、半相殺方式^注を採用している3府県（埼玉県、京都府及び奈良県）を加えた6府県を調査対象としている。

注：半相殺方式とは、被害耕地ごとの減収量（その耕地の基準収穫量から収穫量を差し引いた数量）の合計が、その組員等
の基準収穫量（その組員等の耕地ごとの基準収穫量の合計）の100分の30を超えるとときに共済金を支払う方式である。

(2) 調査対象

標本荒茶工場

(3) 調査対象数

区分	母集団荒茶工場数	標本数	抽出率	回収数	回収率	集計対象数
一番茶	工場 4,379	工場 583	% 13.3	工場 484	% 83.0	工場 479

3 調査事項

摘採面積、生葉収穫量、茶種別荒茶生産量

4 調査期日

一番茶調査は4月～6月に実施した。

5 調査方法

摘採面積の把握は、標本荒茶工場に対する往復郵送調査及び職員による巡回・見積りの方法、生葉収穫量及び茶種別荒茶生産量の把握は、標本荒茶工場に対する往復郵送調査及び職員による巡回・情報収集の方法による。

6 集計方法

摘採面積、生葉収穫量及び茶種別荒茶生産量について、階層別に推計を行い算出している。なお、主産県計については、主産県の結果を積み上げ集計している。

7 調査結果の精度（標準誤差率）

本調査における実績精度（標準誤差率）は、荒茶生産量を指標として2.33%である。
 標準誤差率（%）＝標準誤差÷推定値×100

8 用語の解説

(1) **おおい茶**とは、玉露、かぶせ茶及びてん茶の合計である。

なお、おおい茶については、近年増加している20日前後の直接被覆による栽培方法の取扱いが明確化するまでの間、暫定的に玉露、かぶせ茶及びてん茶を一括しておおい茶として表章することとしたものである。

(2) **普通せん茶**とは、各茶期に、自然光下で栽培した茶樹の新芽を摘採し、その生葉を蒸熟、揉み操作、乾燥して製造した荒茶をいう。

(3) **玉緑茶**とは、自然光下で栽培した茶樹の新芽を摘採し、その生葉を蒸熟又は釜炒りし、強く揉まず、乾燥して製造した荒茶で、まが玉形やこれに準ずる形状をしたものをいう。

(4) **番茶**とは、硬くなった新芽（葉）や冬茶期後に整枝の目的で刈り取った茶葉を原料に、蒸熟、揉み操作、乾燥して製造した荒茶をいい、番茶を強火で焙じ、焦香をつけたほうじ茶を含む。

9 茶期区分

全国の標準的な茶期区分は、次のとおりである。

茶期名	区 分	茶期名	区 分
一番茶	3月10日 ～ 5月31日	冬春秋番茶	
二番茶	6月1日 ～ 7月31日	冬春番茶	1月1日 ～ 3月9日
三番茶	8月1日 ～ 9月10日	秋冬番茶	10月21日 ～ 12月31日
四番茶	9月11日 ～ 10月20日		

10 統計表の見方

(1) 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある。

原 数		6けた (10万)	5けた (万)	4けた (1000)	3けた以下 (100)
四捨五入するけた数（下から）		2 けた		1 けた	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	123 456	12 345	1 234	123
	四捨五入した後（統計数値）	123 500	12 300	1 230	123

(2) 表中に用いた記号は以下のとおりである。

「－」： 事実のないもの

「x」： 個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの

(3) 秘匿措置について

統計調査結果について、調査対象数が3未満の場合には調査結果の秘密保護の観点から、該当結果を「x」表示とする秘匿措置を施している。

なお、全体（計）からの差し引きにより該当結果が推定できる場合には、本来秘匿措置を施す必要のない箇所についても「x」表示としている。

11 その他

この資料の数値は概数であり、確定値は平成23年10月刊行予定の『作物統計』に掲載する。

また、二番茶以降を含めた年間の荒茶生産量（概数）等については、「平成22年産茶生産量」として平成23年2月中旬に公表予定である。

【ホームページ掲載案内】

各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報でご覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果の分野別分類は「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類は「工芸農作物（さとうきび・茶など）」に分類しています。

【関連リンク】

農林水産施策関係ページ：農林水産省>基本政策

<http://www.maff.go.jp/j/kanbo/>

農業生産振興関係ページ：農林水産省>生産

<http://www.maff.go.jp/j/seisan/>

問い合わせ先

本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：03(3502)5687

農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画課 広報普及班

電話：03(6744)2037